

第1回 高校生SDGs選手権大会 ポスター発表 説明資料

学校名	福岡県立北筑高等学校
チーム名 (メンバー名)	障害のための公共チーム (出原 愛美・林 美里)
作品タイトル	障害のための公共
関係する SDGs のゴール	11 住み続けられるまちづくりを
説明文	<p>私達は PLS の障がいを持った落水洋介さんの講演会を聴き、障害について興味を持ち、今回 SDGs の目標 11 に着目しました。</p> <p>まず、基本的な知識として、障害とは日本の法律でどのように定義されているのか、障害の認識について調べました。</p> <p>そして、落水洋介さん・北筑生にインタビューを行い、北筑高校のバリアフリーについて改善すべき箇所を見つけ、課題解決へ一歩踏み出すために、私達にできることとしてポスターを設置しました。</p> <p>また、身の回りの公共施設ではどのようなバリアフリーや活動が行われているのか調べました。「声かけサポート運動」という活動では、北筑生の認知度は低く、日常生活での障がい者に対する意識が低いことが分かりました。そこで、意識を高めるためにも、私達自身が障がい者の立場を経験してみることが必要だと考え、視覚障害者の体験を行いました。</p> <p>体験を通して、公共施設などのバリアフリーの設備だけでなく、公共の場での相手を気遣う行動が大切であることが分かりました。また、私達には普段からどのような行動習慣を身に付けておくべきなのか考えるきっかけにもなりました。</p> <p>これらを踏まえて、私達にはどのような意識、行動が必要なのか着地点を見出しました。</p>
課題、 今後の展開など	<p>私達は、この探究活動を通して3つの課題を発見しました。1つ目は、公共施設の設備を充実させ、多目的トイレなどの公共施設に対する分かりやすい場所案内を設置すること。2つ目は、障がい者の立場を体験し、学ぶことで、歩きスマホや点字ブロック上の障害物の危険性・手すり側を歩かないなどの配慮を心がけること。3つ目は、目の前で困っている方を見つけたら、助けたいと思う気持ちを行動に移し、率先して声を掛けることです。この3つの課題を解決していくことが、障害者の住みやすい町づくりに繋がると考えます。</p>
参考文献等	<p>https://www.welbe.co.jp/job_guide/guide_17.html</p> <p>WATCHING 「視覚障害者等のホームでの事故を防ぐために」(Adobe PDF)</p> <p>【PDF】1. 声かけサポート運動の概要</p>

(説明文は1ページ以内)